

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.号外

2008/07/12

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

猛暑でも湿原復元作業に挑む！

『北部湿原復元作業』終了後の参加者のみなさん (08/07/12)



研修室でのご挨拶

ここ数年「淡海森林クラブ」と「ローソン緑の基金」の皆さんが、湿原の復元作業に来て頂けるものといつか本会では頼みの綱になるようになっていきます。今年も来て頂けるという話を担当者からお聞きし、この日がどうぞ好天でありますようにと念じ続けていました。何せ関わって頂ける人数が多いので、本会会員が1日にする仕事量とは全然異なるからです。

7月12日これまでにない猛暑の中早朝から県内各地から続々と駆けつけて頂きました。既に顔見知りにならせて頂いた皆さんも大勢おられます。心強い限りです。

「やまかど・森の楽舎」で関係者のご挨拶もそこに現地へ出向いて頂きました。



はやる気持ちを抑えて

「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」



「準備万端・いざ出発！」

<http://www.digitalsolution.co.jp/nature/yamakado/>



「復元作業」取りかかり前のみなさんのお顔・作業後のお顔とは??? (08/07/12)



集積したものの運び出し

北部湿原では、湿原内に既に刈り取りや除伐をして集積してあるものをバケツリレー方式で湿原脇へ移動する班・刈り取り班・除伐班に分かれて作業を行った。



バケツリレーで移動開始



密集したササの刈り取り

を会員が案内させて頂きました。花等が少ない時期ですが、この湿原の重要性の一端は感じ取って頂けたのではないかと思います。毎年のみなさんをはじめとする協力者のおかげで、過年度に復元作業を実施した場所では、湿原特有の植物が次々と再生しています。

これで次の世代への引き継ぎが更に一歩近づきました。ありがとうございました。

たかがバケツリレーと思われがちだが、どうしてどうして炎天下のバケツリレーは「立ちくらみ」との駆け引き、幸い皆さん何事もなく大移動をやって頂きました。他方刈り取り班は、背丈を超える密集したササに悪戦苦闘。除伐班も一つ間違うと大怪我と暑いとも言っておれずの大奮闘でした。木陰での弁当は、結構風もあり心地よい時間帯でした。昼休みには、湿原の周囲



湿原内の除伐